



療育訓練棟内にあるスヌーズレン室(スタッフによる再現)。
光・音・匂いを組み合わせて心地よい環境をつくるス
ヌーズレン室では、活発に行動する患者さんでも落ち着き、
すぐに寝てしまうこともけっこうあるという



丁寧できれいに仕上がっている患者さん作のスウェーデン
刺繍。規則的な糸の出し入れを繰り返す刺繍は有効な活動
になる。驚異的な集中力を発揮する患者さんもある



▲「知的障害のある子どもたちへの福祉と教育に、一生を捧げた糸賀一雄さんは、「この子らを世の光に」という有名な言葉を遺していますが、患者さんと過ごしていると、本当に光だと思ふことがあります」と話す會田精神科医長(左)は邦画好きで、お薦めは蒼井優・阿部サダヲ主演の「彼女がその名を知らない鳥たち」。

青山瑞穂看護師(中央)は、「患者さんは体調をうまく伝えられません。体の不調が気分の変動につながることもあるので、全身管理に注意して、健康で気持ちのいい状態が続くように努めています」と語ってくれた。帰宅すると、3匹の愛犬が出迎えてくれるという。

「患者さんの強みや特性を生かしながら、いかに楽しく過ごしてもらえれば心を砕いています」と話してくれた酒井英佑主任児童指導員(右)のビタミン剤は、自宅で作った小さな家庭菜園で過ごす時間。

蓄積された専門性と 経験を駆使した活動

肥前精神医療センターでは、長期の入院患者さん以外にも、特別支援学校などに通っている未成年の患者さんや、一時的に福祉施設で対応困難な患者さんの短期入院も受け入れています。また、治療により落ち着いて過ごせる時間が長くなった患者さんであれば、できるだけ住み慣れた地域で生活してもらえるように、患者さんの住まいに近い福祉施設などへ退院してもらうことにも積極的に取り組んでいます。病院は生活の最終的な場としてではなく、患者さんが地域で快適に暮らせるようになるための、中間施設的な考えに基づいています。

また、全国でもいち早く強度行動障害を呈する患者さんを受け入れてきた歴史があるので、蓄積された経験と高い専門性を生かし、福祉関係者や医療従事者の方へ研修を実施しています。こうした取り組みは福祉関係者と医療従事

者が互いのネットワークを広げることに役立っており、患者さんのご家族にとっても医療や福祉のサービスを利用しやすい環境づくりにつながります。

複数の関係者と連携を強化しながら、患者さんやご家族を支える地域の拠点としての役割を果たしているのです。



肥前精神医療センター(佐賀県神埼郡吉野ヶ里町)
許可病床数 564 床

日本の精神科医療をけん引してきた基幹医療施設。全国に9施設(いずれもNHO)しかない強度行動障害を呈する患者さんの専門病棟を国内で初めて設置した(1972年)。精神科医療従事者の育成にも努めている。